

## 2019(R1)シカ年度エゾシカ個体数調整実施結果(遺産地域内)

## &lt;全体&gt;

・2019(R1)シカ年度は、世界遺産地域内で、合計 100 頭（オス成獣 37 頭、メス成獣 43 頭、0 歳 20 頭）のエゾシカを捕獲。

\*昨春期事業（2019 年 6 月）で 9 頭、冬期事業(1-3 月)で 78 頭、春期事業(4-5 月)で 13 頭を捕獲。

表 1-2-1. 2019(R1)シカ年度\*の世界遺産地域内におけるエゾシカ捕獲結果

地区名	時期	手法	捕獲結果(頭)				小計
			メス1歳以上	比率(%)	オス1歳以上	0歳(メス/オス)	
幌別   岩尾別	6月	流し猟式SS(運動地)	8	88.9	1	0	9
	1-3月	囲いわな(大型仕切柵)	0	0.0	5	0	5
	1-3月	くくりわな	7	36.8	4	8(2/6)	19
	1-3月	小型箱わな	4	50.0	0	4(1/3)	8
	2-3月	待ち伏せ式誘引狙撃(積雪期)	7	50.0	5	2(0/2)	14
地区別 小計			26	47.3	15	14(3/11)	55
ルサ   相泊	1-3月	くくりわな	8	38.1	9	4(2/2)	21
	1-3月	流し猟式SS(積雪期)	1	11.1	7	1(1/0)	9
	4月	流し猟式SS(残雪期)	4	50.0	4	0(0/0)	8
	4-5月	待ち伏せ式狙撃	4	100.0	0	0(0/0)	4
地区別 小計			17	40.5	20	5(3/2)	42
知床 岬	2月	くくりわな	0	0.0	2	0(0/0)	2
	2月	囲いわな	0		0	0(0/0)	0
	5月	狙撃及び忍び猟	0	0.0	0	1(1/0)	1
地区別 小計			0	0.0	2	1(1/0)	3
<b>総計</b>						<b>100</b>	

\*シカ年度:原則6月に出生するエゾシカの生活史を考慮し、6月1日から翌年5月31日までの1年間をシカ年度として、個体数や捕獲数等を集計するもの

\*表中、トラップナイトとは、1基のわなを1晩稼働させた捕獲努力量

(1) 幌別一岩尾別地区 (図 1-2-1 : モニタリングユニット S04)

1) 結果

- ・ 2019(R1)シカ年度は計 **55 頭** (オス成獣 15 頭、メス成獣 26 頭、0 歳 14 頭) を捕獲。
  - ・ 2011(H23)シカ年度の個体数調整開始から累計捕獲数は 1,747 頭 (うちメス成獣は 929 頭 ; 53.2%)。
  - ・ 2019(R1)シカ年度実行計画目標値 (100 頭) vs 捕獲実績 (55 頭)
  - ・ 第 3 期知床半島エゾシカ管理計画目標 (エゾシカの発見密度) : S04 (29.08 km<sup>2</sup>) の航空カウント発見密度が 5 頭/km<sup>2</sup>以下 vs 1.69 頭/km<sup>2</sup> (2020 年 2 月)
- ⇒\*達成
- ・ 2019 シカ年度の植生の回復段階<sup>\*</sup>は 1~2 (1 に近い、前年度から変化なし)

※第 3 期知床半島エゾシカ管理計画 p17 1.草原現存量の増加、2.嗜好性植物の回復、3.希少種などの回復、4.群落の回復

2) 手法別の捕獲効率と目標頭数の達成状況

表 1-2-2. 2019(R1)シカ年度の幌別一岩尾別地区における各手法におけるエゾシカの捕獲効率と目標頭数

手法	わな稼働日数 (日)	捕獲数 (頭)	捕獲効率 (頭/日)	シーズン数 (年目)	捕獲目標数 (頭)	備考
囲いわな(大型仕切柵)	16	5	0.313	7	10	12月誘引開始

手法	トラップナイト数 (日)	捕獲数 (頭)	捕獲効率 (頭/日)	シーズン数 (年目)	捕獲目標数 (頭)	備考
くくりわな	738	19	0.026	3(再開2年目)	40	20基使用
小型箱わな	166	8	0.048	4	20	4基使用

手法	狙撃実施時間 (h)	捕獲数 (頭)	捕獲効率 (頭/h)	シーズン数 (年目)	捕獲目標数 (頭)	備考
待ち伏せ式誘引狙撃(積雪期)	25.83	14	0.542	4	20	10回実施
運動地流し猟式SS(無積雪期)	11.67	9	0.771	4	10	4回実施

3) 課題

- ・ 各手法別の捕獲頭数は、くくりわなと小型箱わなは捕獲目標数を大きく下回り、待ち伏せ式誘引狙撃 (積雪期) もやや下回った。
- ・ くくりわなによる捕獲効率は、これまで (2011(H23) 及び 2018(H30)シカ年度) で最も低くなった。これまでの捕獲事業により、シカの生息密度が減少していることが主な要因と考えられる。
- ・ 過去の航空カウント調査において、海岸線周辺では多くのシカが確認されている。こうした場所で捕獲を実施する場合、わな設置地点は車道から遠く、毎日の点検やシカの搬出にかかる労力が非常に大きい。

(2) ルサー相泊地区 (図 1-2-1 : モニタリングユニット R13)

1) 結果

- ・ 2019(R1)シカ年度は計 **42 頭** (オス成獣 20 頭、メス成獣 17 頭、0 歳 5 頭) を捕獲。
  - ・ 2009(H21)シカ年度の個体数調整開始から累計捕獲数は 1001 頭 (うちメス成獣 493 頭 ; 49.3%)。
  - ・ 2019(R1)シカ年度実行計画目標値 (70 頭) vs 捕獲実績 (42 頭)
  - ・ 第 3 期知床半島エゾシカ管理計画目標 (エゾシカの発見密度) : R13 (24.68 km<sup>2</sup>) の航空カウント発見密度が 5 頭/km<sup>2</sup>以下 vs 5.19 頭/km<sup>2</sup> (2020 年 2 月)
  - ・ 2019 シカ年度の植生の回復段階<sup>\*</sup>は 1~2 (1 に近い、前年度から変化なし)
- ※第 3 期知床半島エゾシカ管理計画 p17 1.草原現存量の増加、2.嗜好性植物の回復、3.希少種などの回復、4.群落の回復

2) 手法別の捕獲効率と目標頭数の達成状況

表 1-2-3. 2019(R1)シカ年度のルサー相泊地区における各手法におけるエゾシカの捕獲効率と目標頭数

手法	トラップナイト数 (日)	捕獲数 (頭)	捕獲効率 (頭/日)	シーズン数 (年目)	捕獲目標数 (頭)	備考
くくりわな	963	21	0.022	4	30	18基使用

手法	狙撃実施時間 (h)	捕獲数 (頭)	捕獲効率 (頭/h)	シーズン数 (年目)	捕獲目標数 (頭)	備考
流し猟式SS(積雪期)	13.65	9	0.659	7	30	7回実施
流し猟式SS(残雪期)	6.68	8	1.197	7		3回実施
待ち伏せ式狙撃	29.98	4	0.133	2	10	6回実施

3) 課題

- ・ くくりわなによる捕獲効率は前年から大きく低下しておらず、捕獲効率を維持できているが、くくりわな設置に適した場所が少ない。
- ・ 7シーズン目となった流し猟式SSでは、17頭 (内メス5頭、29.4%) の捕獲があった。日中に道路沿いに現れるシカが少なくなり、捕獲効率は徐々に低下している。
- ・ 厳冬期において、中標高帯に移動して低標高の道路沿いに姿を現さず、わなにも誘引することができないシカを捕獲する手法の開発が必要。

### (3) 知床岬地区 (図 1-2-1 : モニタリングユニット M00)

#### 1) 結果

- ・ 2019(R1)シカ年度は計 **3 頭** (オス成獣 2 頭、メス成獣 0 頭、0 歳 1 頭) を捕獲。
- ・ 2007(H19)シカ年度の個体数調整開始から累計捕獲数は 883 頭 (うちメス成獣 469 頭 ; 53.1%)。
- ・ 2019(R1)シカ年度実行計画目標値 (44 頭) vs 捕獲実績 (3 頭)
- ・ 第 3 期知床半島エゾシカ管理計画目標 (エゾシカの発見密度) : M00 (3.23 km<sup>2</sup>) の航空カウント発見密度が 5~10 頭/km<sup>2</sup>以下 vs 16.10 頭/km<sup>2</sup> (2020 年 2 月)
- ・ 2019 シカ年度の植生の回復段階<sup>\*</sup>は 2~3 (全体にまだ 2 に近い、前年度から変化なし)

※第 3 期知床半島エゾシカ管理計画 p17 1.草原現存量の増加、2.嗜好性植物の回復、3.希少種などの回復、4.群落の回復

#### 2) 手法別の捕獲効率と目標頭数の達成状況

表 1-2-4. 2019(R1)シカ年度の知床岬地区における各手法におけるエゾシカの捕獲効率と目標頭数

手法	トラップナイト数 (日)	捕獲数 (頭)	捕獲効率 (頭/日)	シーズン数 (年目)	備考
くくりわな	120	2	0.017	2	ヘリ利用、40基×3夜

手法	わな稼働日数 (日)	捕獲数 (頭)	捕獲効率 (頭/日)	シーズン数 (年目)	備考
囲いわな	3	0	0.000	1	ヘリ利用、1基×3日

手法	狙撃実施時間 (h)	捕獲数 (頭)	捕獲効率 (頭/h)	シーズン数 (年目)	備考
狙撃及び忍び猟	8	1	0.125	-	船利用、2名×4時間

※知床岬の捕獲目標頭数は、手法別に設定されていない

#### 3) 課題

- ・ 2020 年 2 月 25 日に実施された航空カウント調査では、先端部の海食台地上草原を中心とするエリアで 32 頭のシカが発見された。
- ・ 仕切り柵の一部を用いた囲いわなでは、シカの誘引餌としてヘイキューブを使用した。シカを囲いわなへ誘引することはできなかった。シカが食物資源としてヘイキューブを認識して誘引されるまで、誘引日数が足りなかった可能性がある。囲いわな捕獲を成功させるためには、有効な誘引方法 (餌の種類、給餌方法等) の開発が必要。
- ・ メス成獣を現状以上に捕獲するには、ヒグマが冬ごもりを始める 12 月において流氷が来る前の限られた期間に、船舶で知床岬へ移動し、くくりわなによる捕獲を

実施する方法が考えられるが、12月は海況が安定しないため実施は困難。

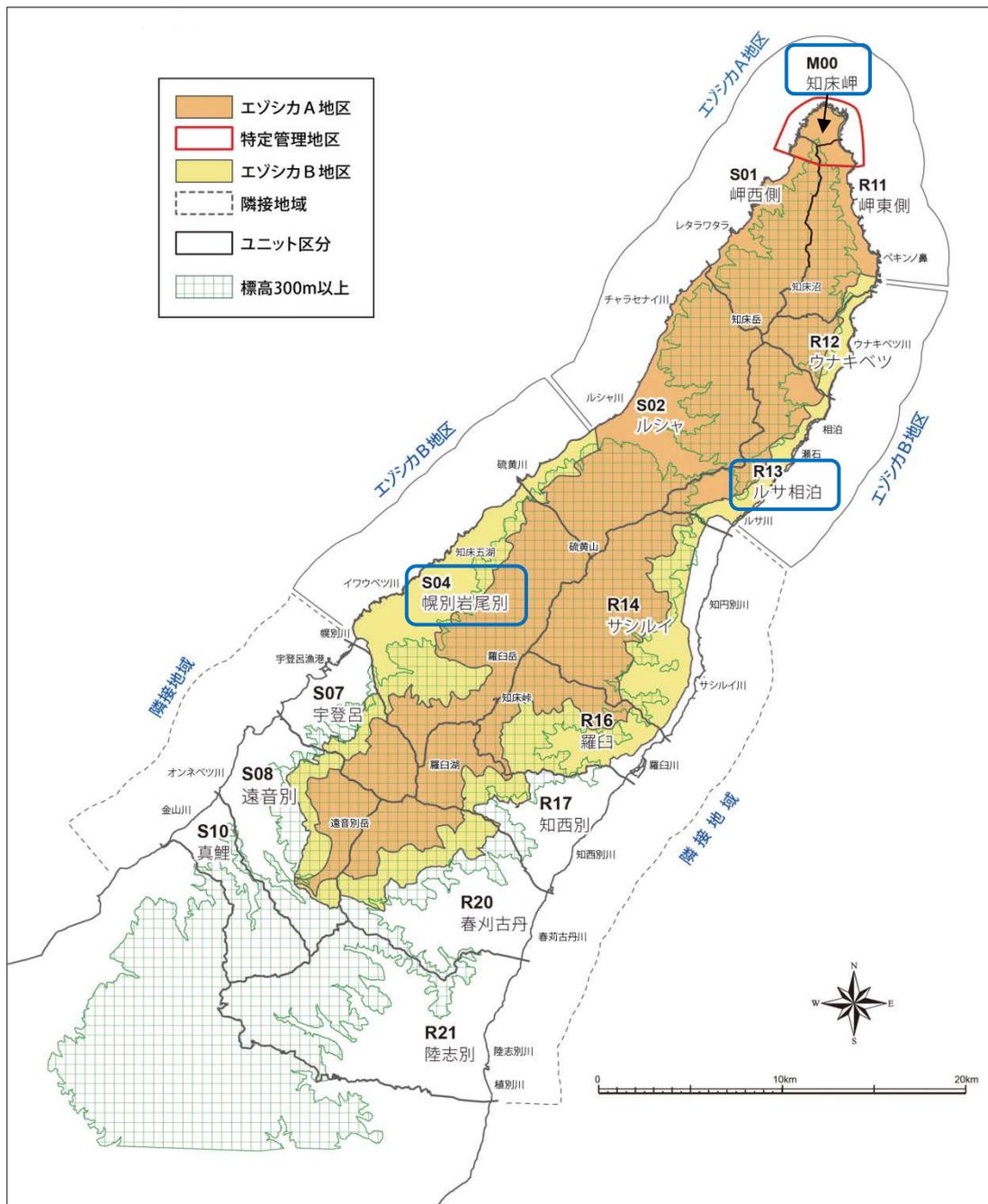


図 1-2-1. 知床半島エゾシカ管理計画に係るモニタリングユニット図.

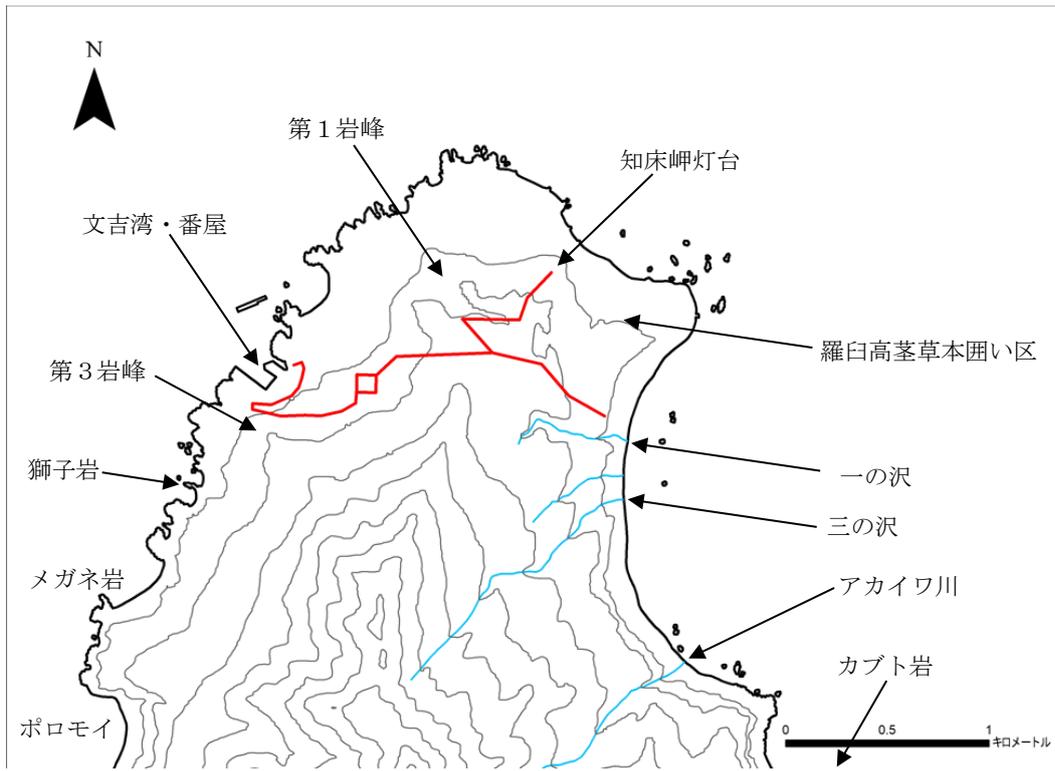


図 1-2-2. 知床岬先端部の地図(赤線が捕獲補助用の仕切柵).